

2021年度 土小 学校経営グランドデザイン

学校教育目標 自ら学び 心豊かで たくましい 土っ子の育成

めざす児童像 かしこく やさしく たくましく やり抜く子

中期目標 3年後に実現したい学校像
地域と共に教育課程を共有し、目指す子どもの姿の実現に向け、学校と地域が一体となって教育活動を行う学校。

短期目標 21年度末に実現すること

土小の職員が目指す児童の姿を共有し、3つの新を通して新たな2022カリキュラムができる。
土小学校運営協議会を設置し、地域も学校と共に、目指す児童の姿を共有する。

を実現すること。

卒業時に目指す姿

かしこく

- ・学んだことを、生活や社会の中で活かせる【Concept 振り返り】
- ・問題や課題の解決に、粘り強く取り組む【Challenge 粘り強さ】
- ・多様な手段を目的に応じ活用することができる。(ICT、図書、新校舎設備、外部人材)

やさしく

- ・他者のことを知ろうとしたり考えたりできる
- ・異年齢の人と積極的に関わり、困っている人を助ける【Control 協働】
- ・多様な価値観を認め合うことができる

たくましく

- ・自分で目標を持ち、調整しながら進み続ける【Communication 自己肯定】
- ・何度も挑戦し、トライ&エラーで新しい方法を見つける
- ・悩んだ時に前向きに解決に向かうことができる

経営重点手段 3つの新

新学習指導要領に沿った土小教育課程、教科横断的な計画を創る
新しく生まれ変わった校舎と教育設備(GIGAスクール等)を生かした実践を創る
新型コロナウイルス感染予防対策から、「できない」ではなく「できる」を探す

目指す教師像

目指す資質・能力を育むために
チームで考え
チームで行い
チームで振り返る

具体的取組み

	学びプロジェクト	心プロジェクト	絆プロジェクト	健康プロジェクト
実現手段	1 新土小カリキュラム創り 総合的な学習の時間を再構築し「土っ子学びの地図」をリニューアルする	1 新土小カリキュラム創り 身に付けさせたい生活習慣を明確にした月の生活目標を、全職員の共通理解を通して実践し反省を通して、年間計画に位置付ける。	1 新土小カリキュラム創り 児童に身に付けさせたい力を明確にし、児童・保護者・学校がそれに向けて共働できる学校行事を企画運営する。	1 新土小カリキュラム創り 新しい学習評価のねらいを共有し、コロナと長寿命化工事で低下した体力の向上を優先とした、新しい体育の単元作りを開発する。
	2 新環境の活用に挑戦 3面ホワイトボードを活用した実践を職員間で共有する。 1人1台端末による、個別最適化された学びの実現に向け、授業での活用場面を増やしていく。 外部人材、学区のリソースを活用した実践を増やし共有する。	2 新環境の活用に挑戦 開放型の校舎となり、授業中の音に対する配慮を学年に応じて指導する。 多くの人が使いやすい設計となっている新校舎において、多様な人との関わり合いの大切さの指導を日々行う。	2 新環境の活用に挑戦 オンラインも取り入れたハイブリッド型の学校行事を企画していく。 広い空間で換気も十分にできる、第4校舎の多目的室を活用した、児童の話し合い活動を定期的に行い活かしていく。	2 新環境の活用に挑戦 1人1台端末を活用し、デジタルによる記録の蓄積と技能の習得をサポートする。 マスクの着用や換気が必須となるため、夏場や冬場の服装や過ごし方など自分で判断できるように指導する。
	3 新型コロナに負けないチーム力 制限のある学習内容でも、新しい学習活動の展開を模索し、実践し、共有(Teams等)し続ける。	3 新型コロナに負けないチーム力 「土っ子エイト」の約束を1人1人が守って生活できるよう、全職員が全児童へ日々の言葉かけを続ける。	3 新型コロナに負けないチーム力 学校行事全般においては、全職員が一人称視点で議論し、透明性を持って共働していく。	3 新型コロナに負けないチーム力 新しい生活様式を踏まえ、発達段階に応じた体力及び健康意識の向上に向けての取り組みを展開する。

目指す
成果・効果

実践しながら修正し、みんなでつくりみんなが実践する2022年 年間指導計画の作成
実践しながら検証し、実効性のある、学校図書館&GIGA&ICT+新教室活用マニュアルの作成
学校運営協議会に対して、全職員がゲーディネートネットワークの構築(コミュニティースクール)